第７回（仮称）下井草まちづくりラボ

まちづくりの方針・取組の方向性の検討①

【旧早稲田通りの安全化について】

２０２５年9月27日（土）

杉並区市街地整備課鉄道立体係

本日の流れ

１　開会

２　令和７年度（仮称）下井草まちづくりラボについて

３　道路・交通計画に関するミニ講義

（国士舘大学理工学部　寺内　義典教授）

４　旧早稲田通りの安全化に向けた方針・取組の方向性の検討

（グループワーク）

５　グループワーク成果発表

６　次回のスケジュール

７　区からの連絡事項

８　閉会

1

開会

学識経験者

日本大学理工学部土木工学科　教授
関　文夫

国士舘大学理工学部理工学科　教授
寺内　義典

コンサルタント

株式会社GENプランニング　**奥村　玄**

杉並区

鉄道立体担当課長　**塚田　千賀子**

鉄道立体係長　**諸岡　健**

担当　**市瀬　友太**

担当　**井家　睦**

担当　**菅原　靖広**

担当　**田村　颯大**

担当　**瀧澤　和樹**

アドバイザー　日本大学理工学部土木工学科 教授

関　文　夫　先生

土木設計家
土木技術者（技術士・工学博士）

＜経歴＞
1985 年 4 月　大成建設株式会社入社：橋梁を中心に設計と現場を往来した後、環境に配慮した土木デザインを展開する
2011 年 3 月　大成建設株式会社退職
2011 年 4 月　日本大学理工学部土木工学科教授：現在に至る

＜専門＞
・土木デザイン　橋、トンネル、高速道路、河川、街路、公園、駅前広場、スポーツ施設などの設計
・構造システム　構造解析、構造システム、耐震設計、維持管理
・土木史　土木技術史、土木設計史。江戸土木史
・まちづくり　まちづくり、活性化、限界集落 ppp、水力発電
・森づくり　生物多様性、カーボン FIX, 環境教育
・災害救助　救助訓練施設設計、訓練プログラム、災害教育

国士舘大学理工学部理工学科　教授

寺内　義典　先生

＜経歴＞
2000年 福井大学大学院工学研究修了 博士(工学)
　同年　　財団法人福井地域環境研究所 研究員
2001年 国士舘大学工学部 専任講師
　現在　　〃　　理工学部 教授
＜専門＞
1973年、愛知県生まれ。高専・大学と、交通や都市計画に関する研究室に所属し、交差点の交通安全・道路の雪対策検討・コミバスの調査計画などに携わる。ふくい路面電車とまちづくりの会など市民活動に取り組む。
2001年に東京に転居。世田谷で住民参加のまちづくりを学び、遊び場マップづくり、バリアフリーの商店街整備、自転車や横断歩道の交通安全、都市計画道路沿道まちづくりなどに関わる。生活道路のゾーン対策や通学路・横断歩道を研究している。

ファシリテーター　株式会社 GEN プランニング　代表

奥　村　玄　さん

技術士 一級建築士
登録ランドスケープアーキテクト
地域再生マネージャー
（地域総合整備財団）

＜経歴＞
◆2007 年～ 2010 年和歌山県高野町地域再生マネージャー派遣
◆2014 年～現在小田急線（東北沢～下北沢～世田谷代田）上部および周辺のまちづくり
◆2015 年鎌倉市津波避難実施計画策定市民会議企画運営
◆2016 年～2022 年草加松原児童センター基本構想・運営計画企画支援（早稲田大学卯月研究室）

＜専門＞
・市民参加多様な分野における市民参加のコーディネートワークショップ企画運営
・地域計画地域再生中心市街地活性化地域福祉計画地域交通計画
・建築計画公共施設計画古民家再生計画
・都市デザインプロムナード計画設計景観計画
・ランドスケープ計画公園計画設計河川環境計画
・防災計画震災・水害等復興計画津波避難計画

2

令和７年度（仮称）
下井草まちづくりラボについて

下井草駅周辺まちづくり活動の背景

西武新宿線（野方駅～井荻駅間）では、交通渋滞や事故の危険性をはらんでいる開かずの踏切除却のため、現在、東京都により道路と鉄道の連続立体交差化計画の検討が進められ、 杉並区においても連続立体交差化を契機とした下井草駅周辺まちづくりの検討を進めてきています。

連続立体交差事業とは・・・

市街地において道路と交差している鉄道を一定区間連続して高架化又は地下化することで立体化を行い、多数の踏切の除却や新設交差道路との立体交差を一挙に実現する都市計画事業です。

＜主な事業効果＞

①踏切遮断による交通渋滞及び踏切事故の解消
②市街地の分断を解消することによる、まちの活性化
③新たに生み出された空間を駐輪場や公園など、多目的な形で利用　等

＜参考事例＞

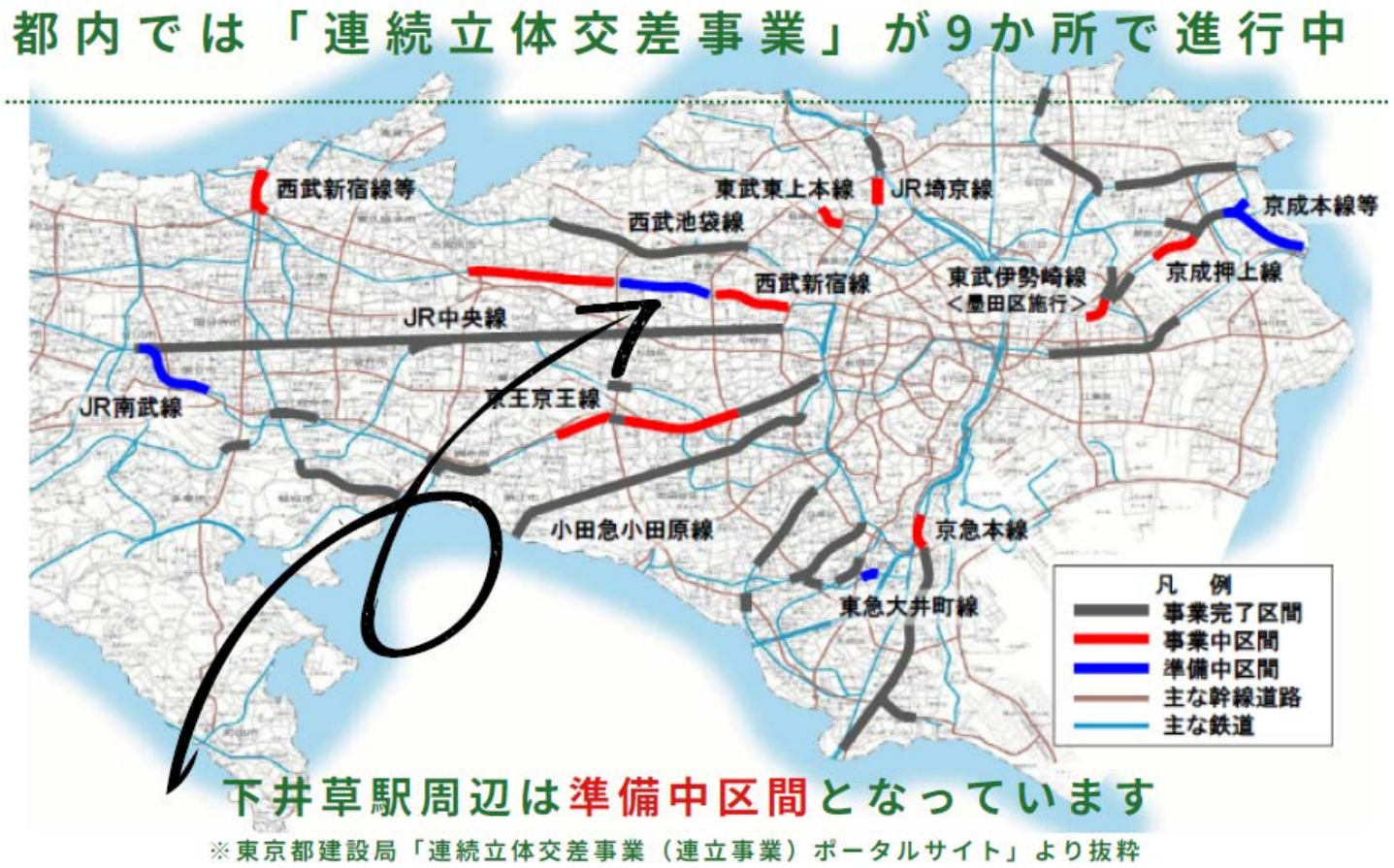
京成押上線（京成曳舟駅付近）明治通り
線路を高架化や地下化することで、踏切を除却します

連続立体交差事業は単に交通問題の解消を図るだけでなく、駅周辺の整備と連携した総合的なまちづくりを行うことで、都市の再生やまちの活性化に繋がります。

下井草駅周辺まちづくり活動の背景

下井草駅を含んだ事業区間である「西武新宿線（野方駅～井荻駅間）連続立体交差事業は現在、**準備中区間**に位置付けされており、事業主体である東京都が、高架化・地下化といった構造形式や施工方法等について検討を進めています。

杉並区においても、今後の西武新宿線（野方駅～井荻駅間）連続立体交差事業を見据え、地域の皆様からご意見を伺いながらまちの課題解決に向けたまちづくりの検討を進めています。



令和４年度・５年度の取組みを振り返ると・・・

	令和４年度・令和５年度
名称	下井草駅周辺まちづくりワークショップ
目的	連続立体交差事業を契機に、これまで多く寄せられてきた道路・交通に関する課題解決を目指し、地域の方々と意見交換を行う場として、下井草駅周辺まちづくりワークショップを開催します。
活動内容	令和４年12月　第1回：オリエンテーション 令和５年５月　第２回：将来イメージ案の検討① ６月　第３回：将来イメージ案の検討② ７月　第４回：将来交通のあり方案の検討 ９月　第５回：整備目標・整備計画図（たたき台）の検討 令和６年１月　第６回：整備目標・整備計画図（たたき台No.2）の検討
成果	整備目標・整備計画図（たたき台No.2）を作成しました。 ↓ ワークショップ・オープンハウスでいただいた意見を集約して整備目標・整備計画図（たたき台No.2）を作成したが、地域の方々から、まちの現状把握やまちづくりについての知識を深め、鉄道の高架化・地下化後のまちをそれぞれ想定したうえで検討を進めていく必要があるとご意見を伺いました。

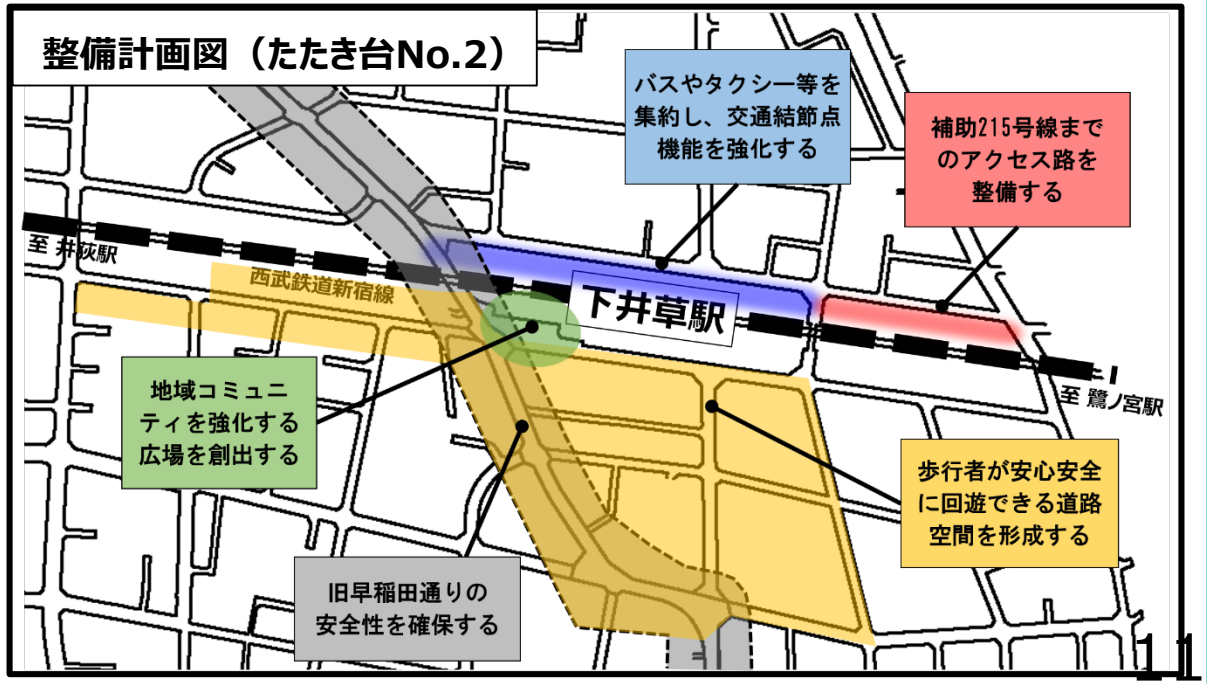
整備目標（たたき台No.2）

１.コンパクトな交通結節点機能の強化

２.歩行者の安全性の確保

３.みどり豊かなにぎわい空間の創出

（集い溜まれる・みどり豊かな場所）



令和６年度の取組みを振り返ると・・・

	令和６年度
名称	（仮称）下井草まちづくりラボ
目的	幅広い世代の方々とまちあるきや勉強会、意見交換等を行い、連続立体交差事業を見据えた下井草駅周辺のまちの将来像について研究する場として、（仮称）下井草まちづくりラボを開催します。
活動内容	令和６年７月　第1回：オリエンテーション ７月　第２回：まち歩き ８月　第３回：まち歩き振返り ９月　第４回：勉強会 10月　第５回：事例視察 11月　第６回：今後の取組みに向けた検討
成果	参加者がまちの課題やまちづくり、道路と鉄道の連続立体交差事業について理解を深め、まちの課題を解決するために今後取組みたいことや実現したいことについて考えました。 ↓ まちの将来像に向けた今後取り組んでいきたいこと・実現していきたいこととして「旧早稲田通りの安全化」が重要視されています。ほかにも、駅前広場整備やみどり・にぎわいについても関心が高くなっています。

第６回（仮称）下井草まちづくりラボ成果
～今後取組みたい・実現したい関心事～

A班	
テーマ	**歩行者目線で安全な道づくり**
今後取り組みたいこと・実現したいこと	下井草駅周辺の安心して歩ける安全な道づくり～旧早稲田通りの拡幅整備～
	旧早稲田通りの一方通行化の検討

B班	
テーマ	**便利で安全な交通結節点の実現**
今後取り組みたいこと・実現したいこと	バスルート・バス停の位置の見直し～旧早稲田通りの一方通行化を与条件とする～
	バスルート・バス停の位置の見直し～現在の旧早稲田通りを与条件とする～
	バスの乗降口の整備統一
	連続立体交差事業の可能性を検討

C班	
テーマ	**みどりをきっかけとして、時代、みどり、生き物をつなぐまちづくり**
今後取り組みたいこと・実現したいこと	生き物緑地と木陰ベンチ
	農地の保全活動

D班	
テーマ	**たくさんの個人が関わって、にぎわいのあるまちに**
今後取り組みたいこと・実現したいこと	商店街の活性化
	駅周辺を中心に暮らしやすく便利なまち
	たくさんの個人がまちに参加できるしくみ
	誰でも使える広場の仕組みづくり
	駅の周辺から上井草・井荻・下井草３駅をつなぐまちづくり
	文化×美味しさ×運動を通じて、地域住民が幸せになるまちづくり

E班	
テーマ	**線路跡地の活用の可能性を広げたい**
今後取り組みたいこと・実現したいこと	できれば鉄道を地下化にして公園（雨庭や防災機能）や緑地をつくる
	地下化による多面的な効果を検証する

令和４年度～令和６年度の取組を踏まえた結果、下井草駅周辺のまちの将来像を考える上で、旧早稲田通りの安全化等の関心事について、一度立ち止まって具体的に掘り下げる必要があります。

これまでの成果を踏まえ、

令和７年度（仮称）下井草まちづくりラボでは、

①旧早稲田通りの安全化

②駅前広場・交通結節点のあり方

③みどり

④にぎわい

の４点において、まちの課題を解決するための

方針や取組の方向性について議論を深め、

まちの将来像を研究します。

令和７年度（仮称）下井草まちづくりラボスケジュール

第７回（仮称）下井草まちづくりラボ
日時：令和７年９月２７日（土）　午前９時～１２時
会場：桃井第五小学校体育館
テーマ：方針・取組みの方向性の具体的な検討①（旧早稲田通りの安全化）

第８回（仮称）下井草まちづくりラボ
日時：令和７年１０月２５日（土）　午前９時～１２時
会場：桃井第五小学校体育館
テーマ：方針・取組みの方向性の具体的な検討②（駅前広場・交通結節点）

第９回（仮称）下井草まちづくりラボ
日時：令和７年１２月６日（土）　午前９時～１２時
会場：桃井第五小学校体育館
テーマ：方針・取組みの方向性の具体的な検討③（みどり）

第１０回（仮称）下井草まちづくりラボ
日時：令和８年１月１０日（土）　午前９時～１２時
会場：桃井第五小学校体育館
テーマ：方針・取組みの方向性の具体的な検討④（にぎわい）

3

道路・交通計画に関するミニ講義

（国士舘大学理工学部　寺内　義典教授）

旧早稲田通りの安全化について、これまでの意見交換で出されたアイデアとして、

①無電柱化　（電柱の移設や撤去）

②バリアフリー化　（道路と歩道の段差解消）

③一方通行化　（バスルートの変更や迂回ルートの検討）

④道路拡幅　（歩道の拡幅や地区計画の導入）

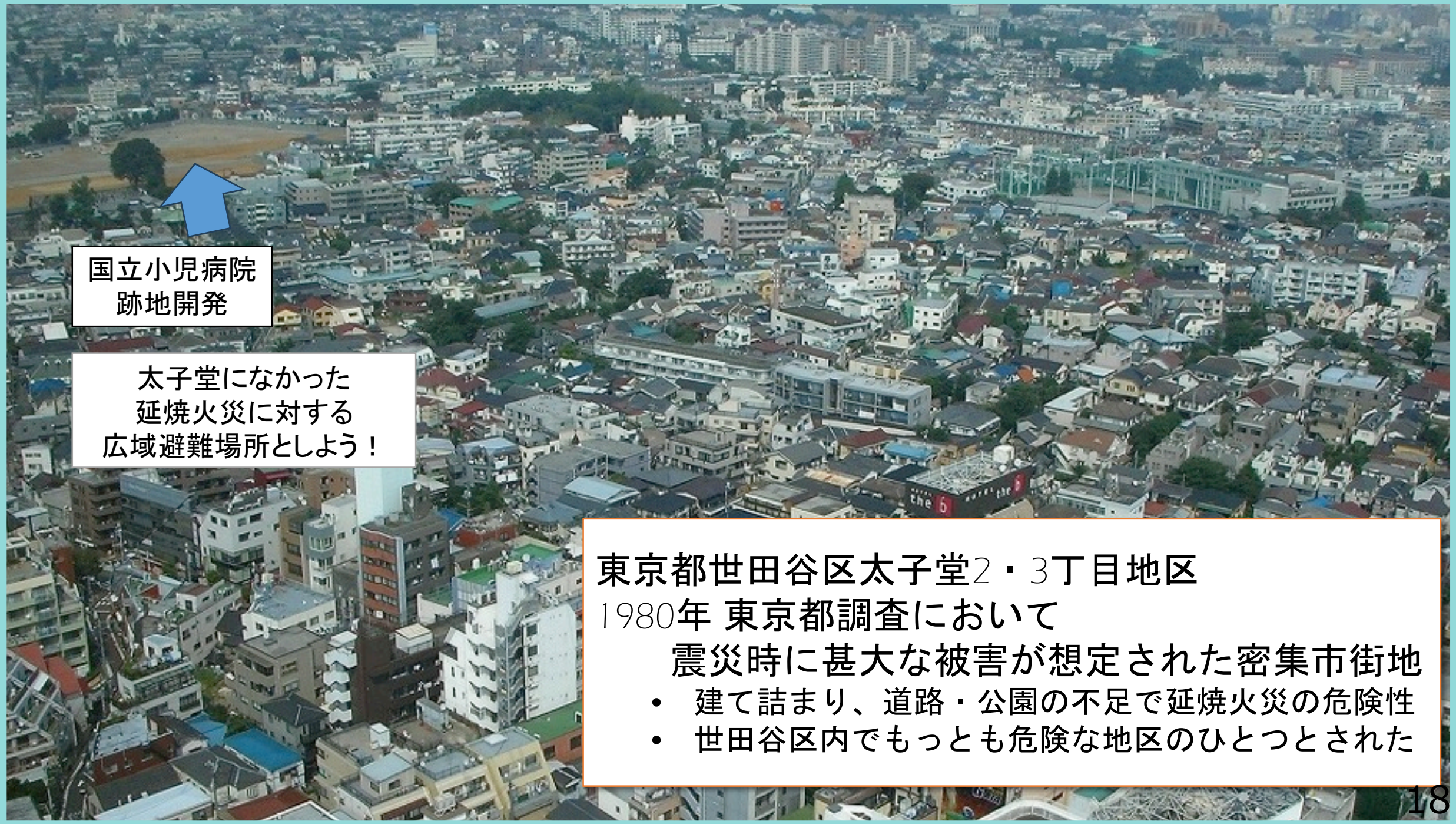
等がありました。

本日は、国士舘大学の寺内教授より、それぞれのアイデアの**実現可能性**や道路に関与する多様な人達による**合意形成の必要性**、これまでに**実現してきた事例**等について、ご講義いただきます。

事例紹介１

跡地開発をきっかけとしたみちづくり・まちづくり

世田谷区太子堂・三宿地区



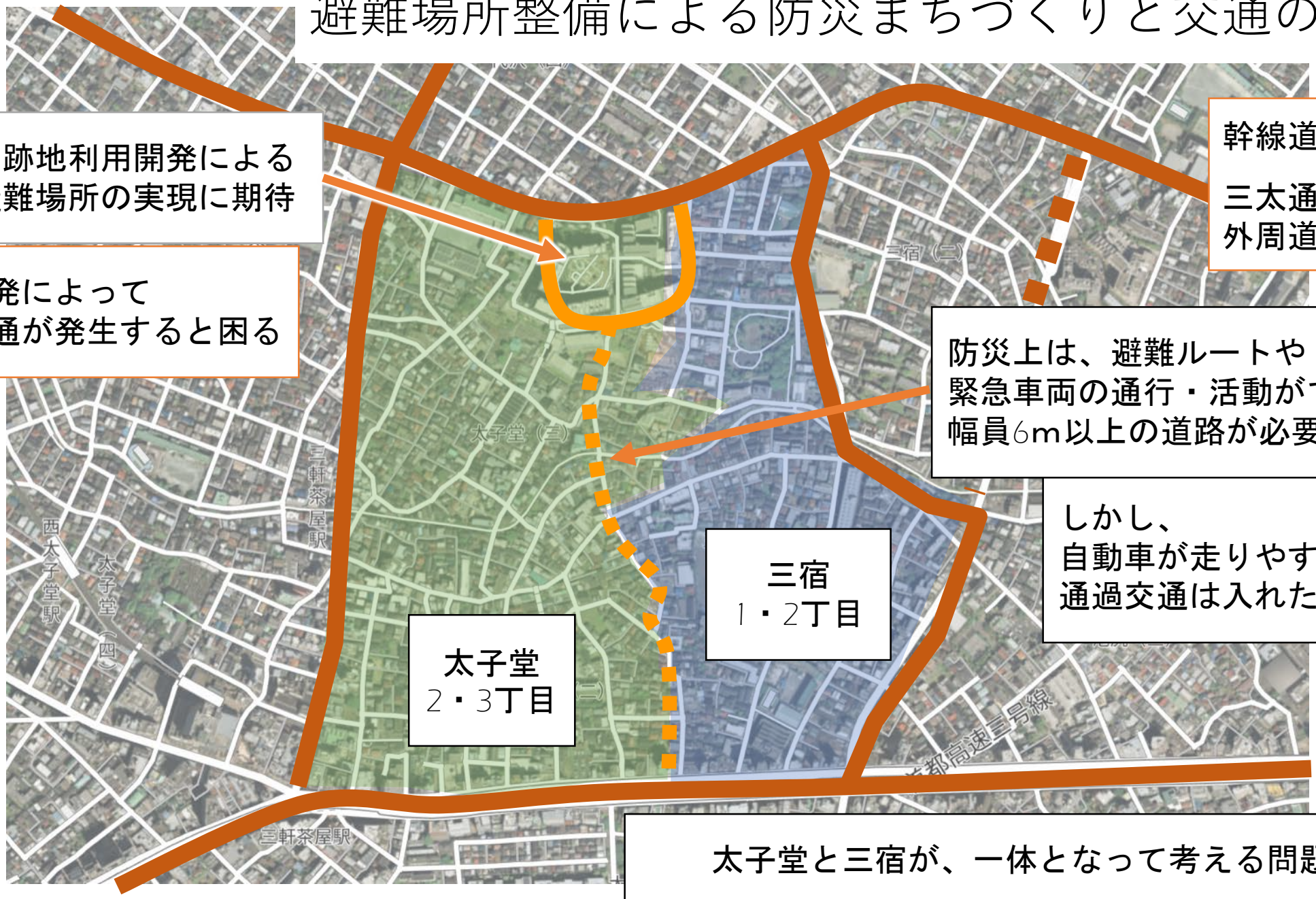
東京都世田谷区太子堂2・3丁目地区

1980年 東京都調査において

震災時に甚大な被害が想定された密集市街地

- 建て詰まり、道路・公園の不足で延焼火災の危険性
- 世田谷区内でもっとも危険な地区のひとつとされた

避難場所整備による防災まちづくりと交通の矛盾



病院の跡地利用開発による
広域避難場所の実現に期待

しかし開発によって
大きな交通が発生すると困る

幹線道路

三太通り
外周道路

防災上は、避難ルートや
緊急車両の通行・活動ができる
幅員6m以上の道路が必要

しかし、
自動車が走りやすくなる
通過交通は入れたくない

三宿
1・2丁目

太子堂
2・3丁目

太子堂と三宿が、一体となって考える問題

修復型まちづくりの太子堂の交通状況

- 大規模な開発による防災まちづくりは、ハードの防災が進むが、ソフトとしての継続的な地域活動を損なう
- ハードとソフトの両立を目指した「修復型まちづくり」
  → 住民参加のまちづくりが始まりおよそ40年

↓

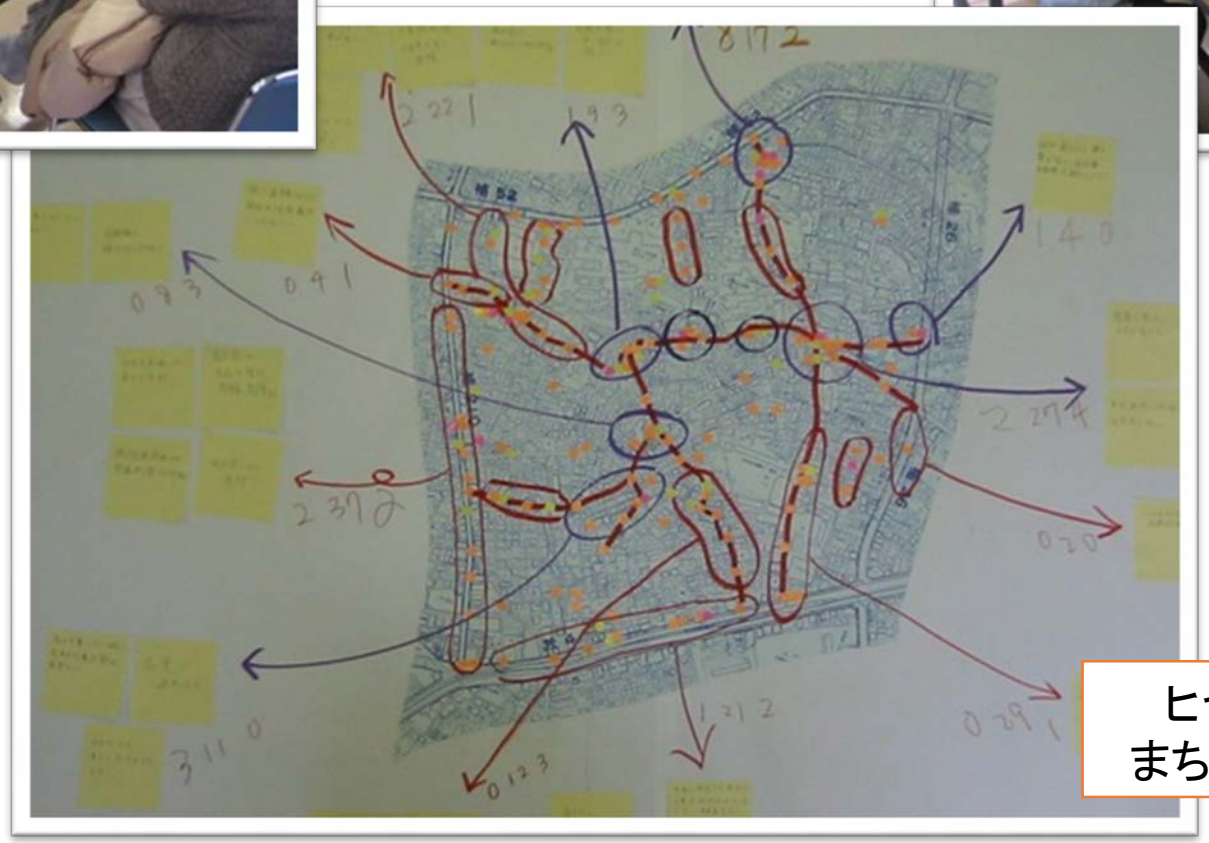
- 狭小敷地と狭隘道路：<u>クルマ利用少ない路地のまち</u>
- 斬新的に進む狭隘道路の解消…<u>クルマの増加要因</u>

さらに…

- 地区外縁の病院が移転、再開発計画
  →広域避難場所として期待
- しかし<u>地区内への交通流入の懸念</u>

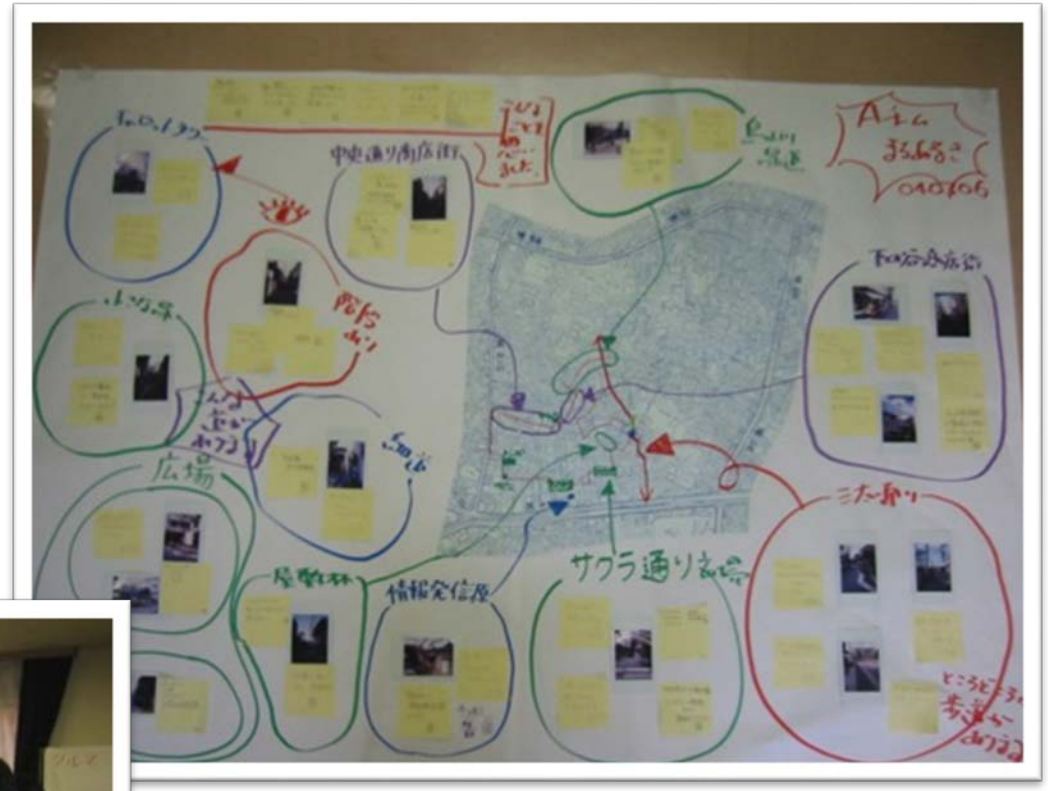
交通量は少なく
速度も出ない。
しかし電柱なども多く
安心感はない。

小学生のヒヤリハット
アンケート回答を
手分けしてマップ化



ヒヤリハット指摘から
まちの課題をあぶりだす

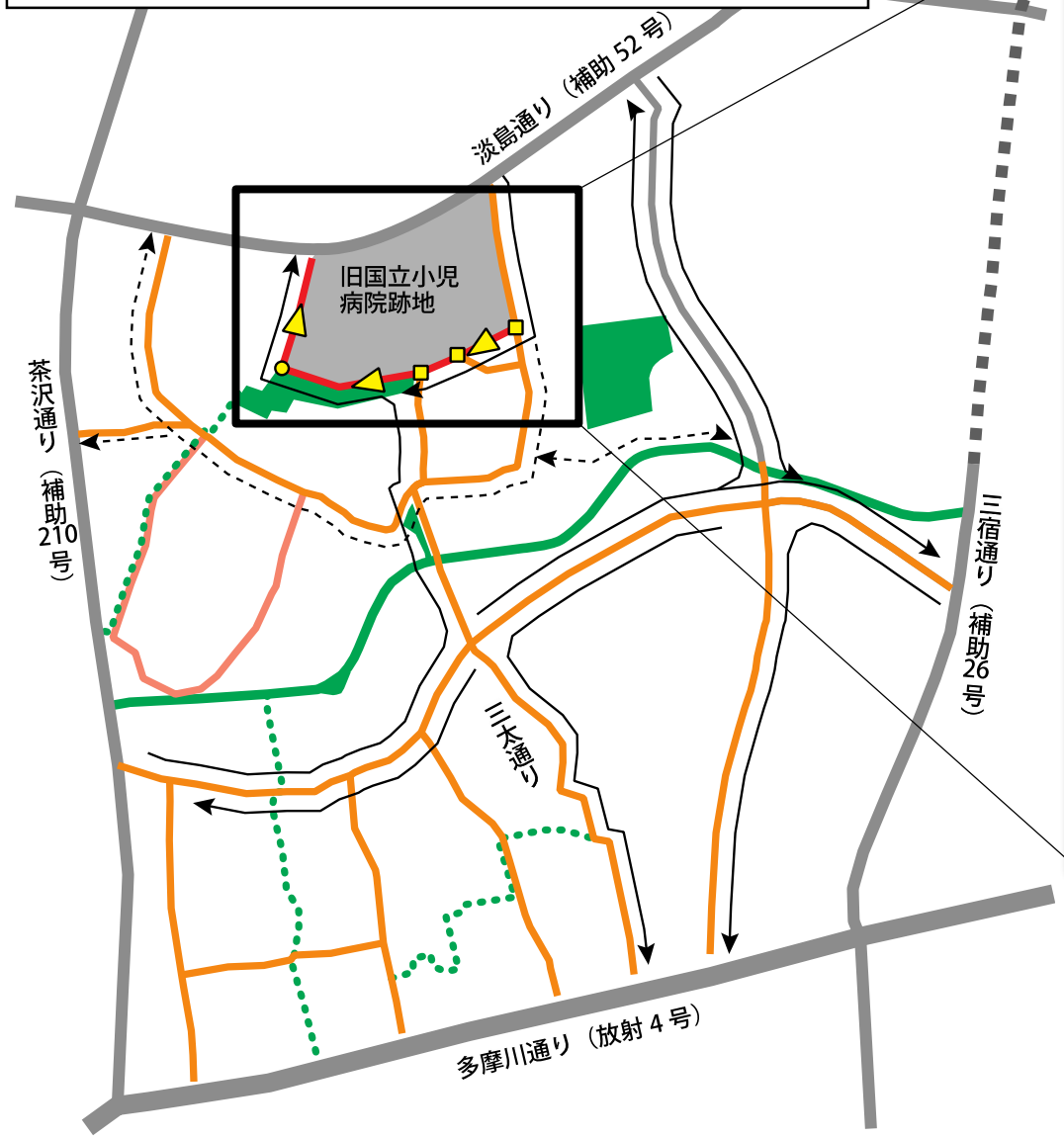
まちあるきで
まちの魅力を再発見



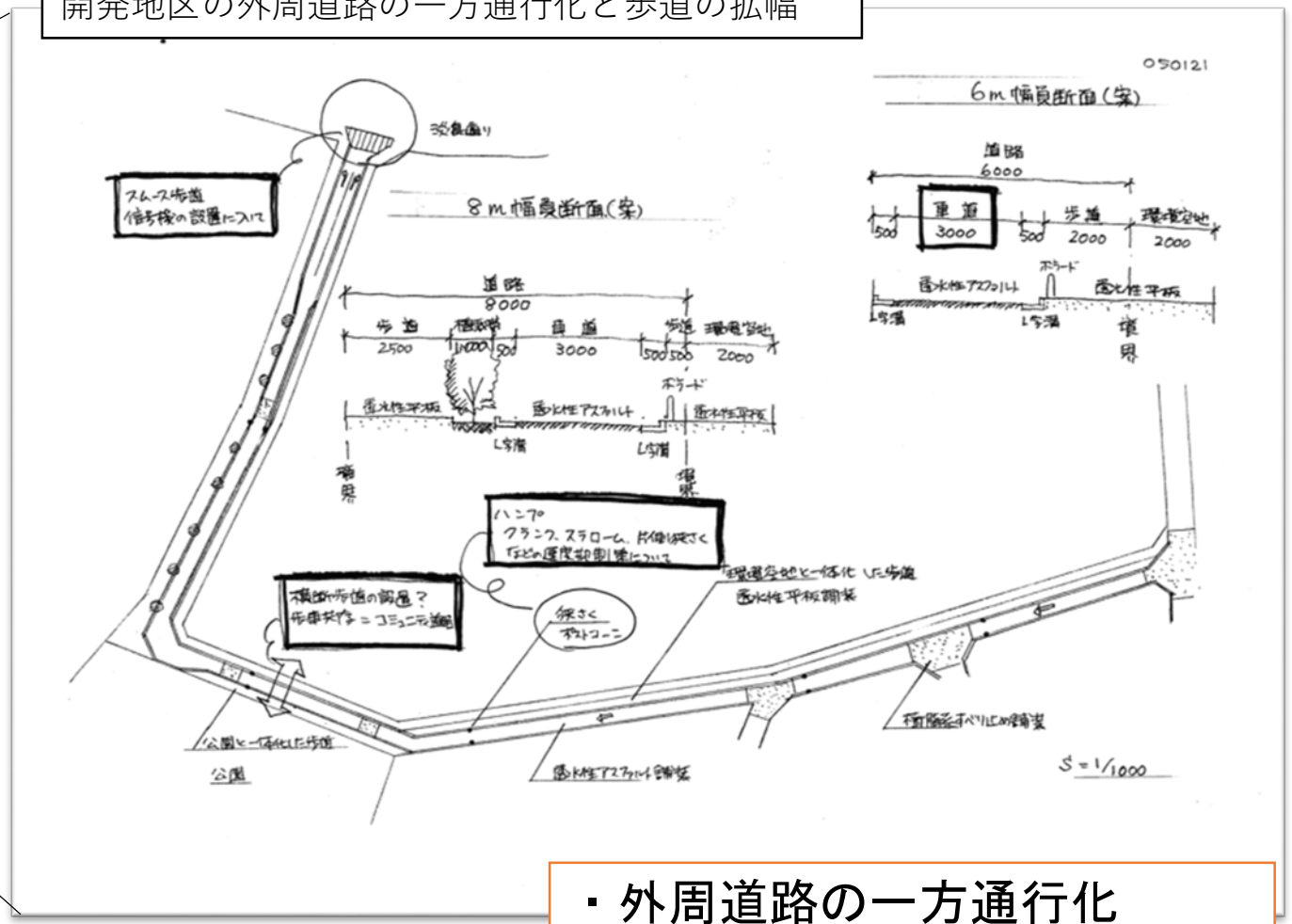
議論をかさねて
提案づくり

道路に関する２つの提案

提案１
地区全体の一方通行見直しによる通過交通の排除



提案２
開発地区の外周道路の一方通行化と歩道の拡幅



・外周道路の一方通行化
・ハンプの設置（3箇所）
・交差点のカラー化（3箇所）

交通規制と道路整備に関する住民合意形成

一方通行化とハンプ設置
全員合意が得られるまで
何度でも全戸配布と説明会を繰り返す

整備された外周道路

一方通行化により
両側に歩道を設ける

横断歩道手前に
速度を落とさせるハンプを設置

交通規制と道路整備に関する住民合意形成

- 学ぶ。 調べる。 やってみる。 そして、議論する。
  - 学ぶ ： 勉強会、見学会の実施
  - 調べる ： まちあるき、アンケート
  - やってみる ： ワークショップ

  そして、みんなで議論する

  - それでも 「まちづくりに唯一解はない」 （梅津さん）
  - だからこそ、プロセスを重視するのだろう。

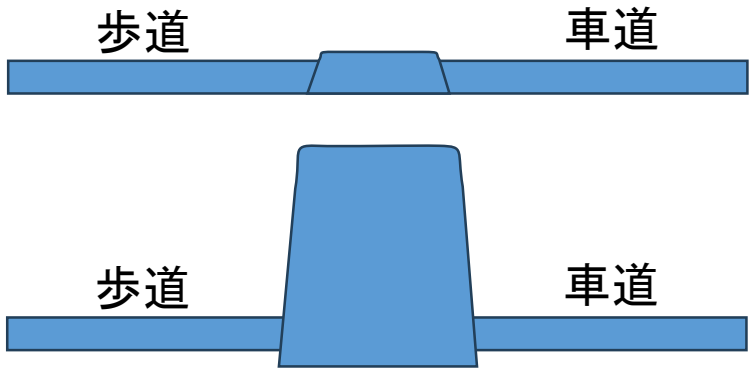
- まちづくりは時間がかかる
  - 「時間と忍耐はまちづくりの必要コスト」 （梅津さん）
  - 協議会設立まで2年。最初の中間提案まで2年半。あわせて4年半
  - 「修復型まちづくりは時間がかかる」
  - 太子堂の不燃領域率が70%を超えるのに41年

事例紹介２

歩道と無電柱化

沿道の方といっしょに

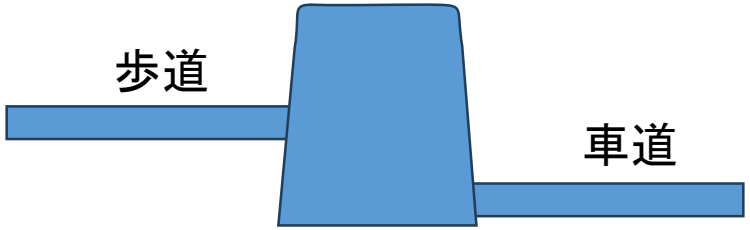
フラット型



歩道と車道の高さが同じ

- 車いすの人は通行しやすい
- 視覚障害者には歩車道境界がわかりにくい
- バスの乗り降り時の高低差が大きい

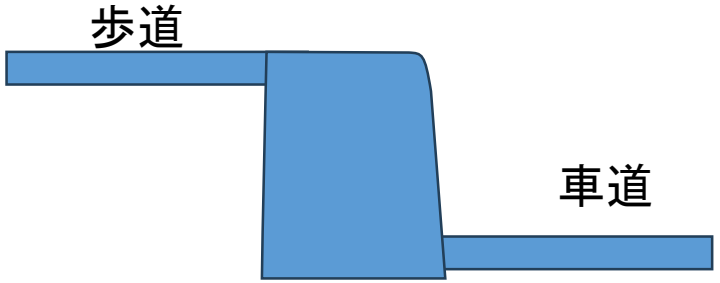
セミフラット型



車道から5cm高い歩道

- 歩道の波打ちを減らすことができる
- 交差点では高さを２cmとしてユニバーサルデザインとする

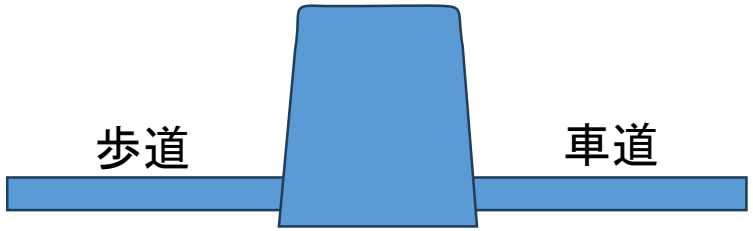
マウントアップ型



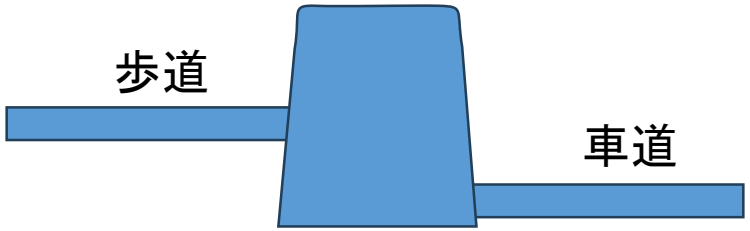
車道から15cm高い歩道

- バスの乗り降りがしやすい
- 車両乗り入れ部で大きな横勾配ができてしまう

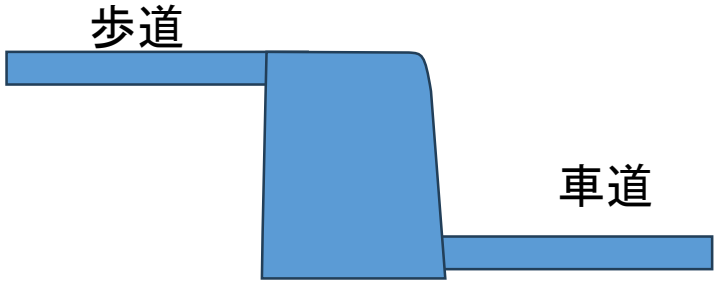
フラット型



セミフラット型



マウントアップ型



無電柱化をすると地上機器（トランス）を置く場所が必要になります。

地上機器は、民地に置くことも可能です。沿道の方の合意が得られれば、歩道を広げることができます。

柱上に機器を設置する方法もあります。柱は残ります。

電柱があることで、逃げ場ができる、
速度が落ちるという声もありますが、
そこに電柱がなかったら…
と言う事故も多いのです。

朝日新聞　２０２４年１０月４日　朝刊　２１ページ　和歌山全県

車が電柱に衝突 4カ月女児死亡

和歌山の国道

3日午前0時5分ごろ、和歌山市和歌浦東2丁目の国道42号で、軽乗用車が道路脇の電柱に衝突した。軽乗用車には県内に住む少年(17)、少女(18)、生後4カ月の女児の3人が乗っており、女児の死亡が確認された。

和歌山西署によると、少女も胸を打って入院した。少年にけがはなかった。2人は女児の両親だといい、事故の状況などを調べている。

（伊藤秀樹）

朝日新聞　２０２５年４月１２日　朝刊　２３ページ　愛知

❗ 事件・事故

●半田のバス事故、運転手の男を書類送検　半田市で1月、鳥インフルエンザの防疫措置にあたった県職員が乗ったバスが電柱などに衝突した事故で、県警が、運転手の男(50)について、睡眠障害の影響で正常な運転に支障が生じる恐れがある状態でバスを運転したなどとして自動車運転死傷処罰法違反（危険運転致傷）の疑いで書類送検したことが、捜査関係者への取材でわかった。書類送検は今月3日付で、男は容疑を認めているという。

捜査関係者によると、運転手の男は1月8日、半田市岩滑西町2丁目の市道でバスを運転中、睡眠障害の影響で仮睡状態に陥り、電柱やガードパイプにぶつかる事故を起こし、乗客1人に軽いけがを負わせた疑いがある。「身勝手な考えで運転し、事故を起こしてけがをさせてしまった」などと話しているという。

朝日新聞　２０２５年２月１日　朝刊　３１ページ　山口全県

(・・)

●路線バスが電柱に衝突、乗客6人負傷（下松署発表）　31日午前8時40分ごろ、下松市古川町3丁目の市道で、防長交通の路線バスが電柱に衝突した。車内には50代の男性運転手のほか、乗客7人が乗っていた。このうち、乗客6人が体の痛みを訴えて病院で診察を受けた。

現場は交差点の近くで、右折しようとしたバスが何らかの理由で歩道に乗り上げ、電柱に衝突したとみられるという。事故原因を調べている。

朝日新聞　２０２４年１０月２０日　朝刊　２３ページ　石川全県

ニュース短信

◆危険運転致死傷容疑で専門学校生を逮捕　金沢市で軽乗用車が横転し、同乗の大学生が死亡した事故で、金沢東署は17日、車を運転していた同市の専門学校生の男(18)を自動車運転死傷処罰法違反（危険運転致死傷）の疑いで逮捕し、発表した。「スピードを出しすぎて事故を起こした」と容疑を認めているという。

署によると、男は16日午後11時半ごろ、同市東蚊爪町の市道で、軽乗用車を制御困難な速度で運転。カーブを曲がり切れずに対向車線側の道路脇の電柱に衝突して横転させ、いずれも後部座席に乗っていた津幡町の男子大学生(19)を死亡させ、金沢市の10代男性にも重傷を負わせた疑いがある。制限速度は40キロだったが、県警は時速100キロ近く出ていたとみている。車には男を含め4人が乗り、友人宅に向かっていたという。

朝日新聞　２０２５年１月１２日　朝刊　２４ページ　東京本社

■無免許 生徒2人死亡

11日午前0時10分ごろ、川崎市川崎区夜光3丁目の市道で、4人が乗った乗用車が電柱に衝突し、運転していた同区の高校1年の男子生徒(16)と、助手席に乗っていた同区の高校1年の女子生徒(16)が死亡した。後部座席の同区の無職女性(17)が重傷、同区の高校1年の男子生徒(16)も軽傷を負った。

神奈川県警川崎臨港署によると、運転していた男子生徒は無免許だった。現場は片側2車線の右カーブ。制限速度は時速50キロだが、車のスピードメーターは90キロを指した状態で止まっていたという。同署は、スピードを出し過ぎてカーブを曲がりきれずに横転し、電柱に衝突したとみて調べている。

朝日新聞　２０２４年１０月１４日　朝刊　１５ページ　徳島全県

ニュース短信

◆鳴門の国道で死亡事故　13日午前5時40分ごろ、鳴門市北灘町大須の国道11号で、乗用車が道路脇の電柱に衝突し、乗っていた徳島市城東町の一宮恵子さん(66)の死亡が確認された。同乗の60代男性の命に別条はないという。鳴門署によると、現場は片側1車線の緩やかなカーブ。車は東進中に南側の電柱に衝突したとみられ、事故原因などを調べている。

4

旧早稲田通りの安全化に向けた方針・取組の方向性の検討（グループワーク）

【目的と検討内容】

【目的】これまで出されたアイデアを模型を使って検証します。

①無電柱化　（電柱の移設や撤去）

②バリアフリー化　（道路と歩道の段差解消）

③一方通行化　（バスルートの変更や迂回ルートの検討）

④道路拡幅　（歩道の拡幅や地区計画の導入）

【検討内容】

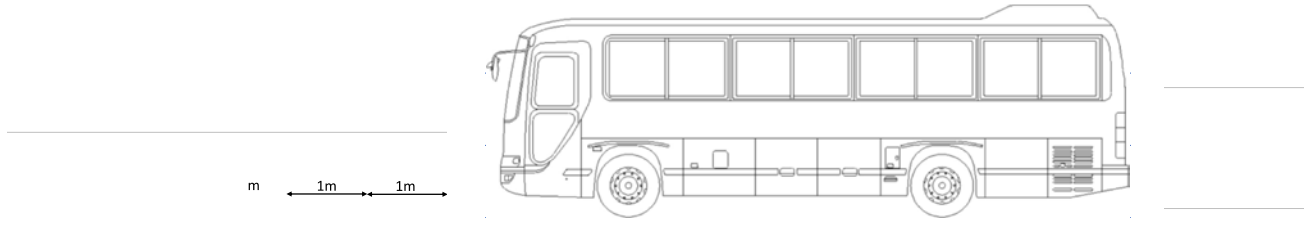
・旧早稲田通りの歩道をより安全にする方法を、模型を使って検証する

・旧早稲田通りに限らずより良いバスの迂回ルートを探し当てる

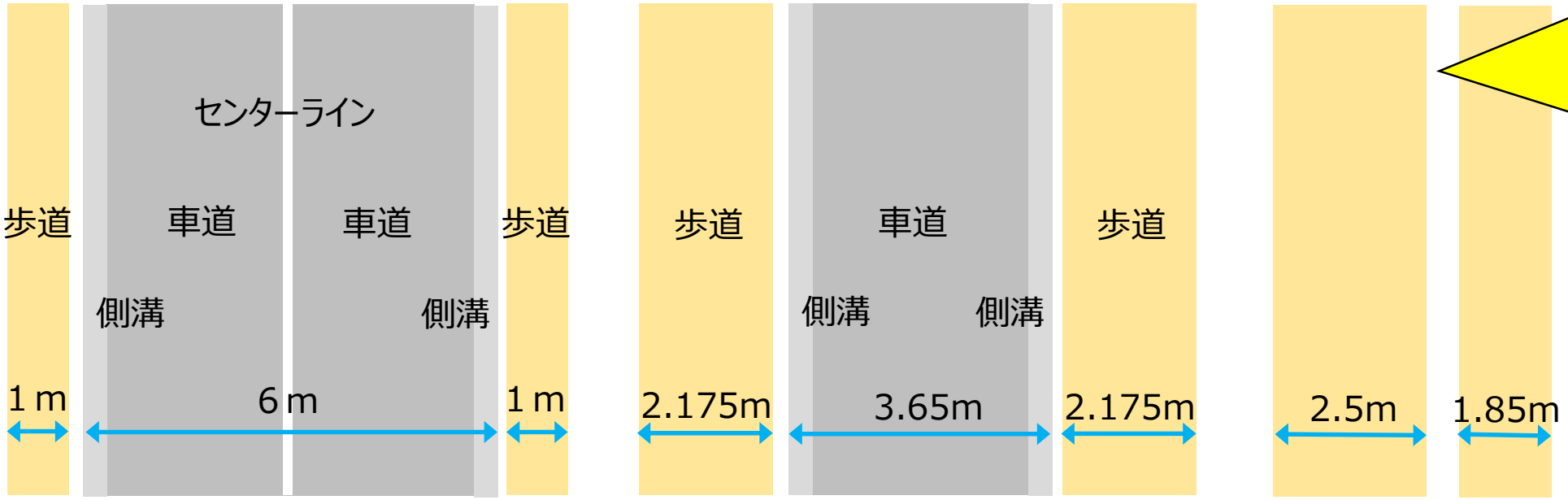
【模型パーツ】 パーツを組み合わせて、安全性と実現性を考えましょう

手順１
・現状の確認（幅員８ｍ）
・現状でできることを工夫する
・通りやすさをチェックする

手順２
・一方通行の場合を考える
・通りやすさをチェックする



歩行者・車椅子など　　バス　　変圧器



現在の道路の構成（双方向各１車線）　　１方通行１車線にした場合　　歩道のバリエーション

参考）
・歩道幅員が2.5m以上の場合は、無電柱化の可能性が高まる
・片方の歩道を2.5mにすると、もう一方は2m以下となる
・両方2.5以上確保する場合は、沿道の建物が下がる必要あり

誰がどのような影響を受けるか、具体的に考えてみましょう。

（発想しやすいように、一部、書いてみました。
参考にしてください。）

手順３　・だれが影響を受けるのかを考えましょう

・現在より良くなることをメモしてください。

・どのような影響を受けるのかをメモしてください

大判の一覧表

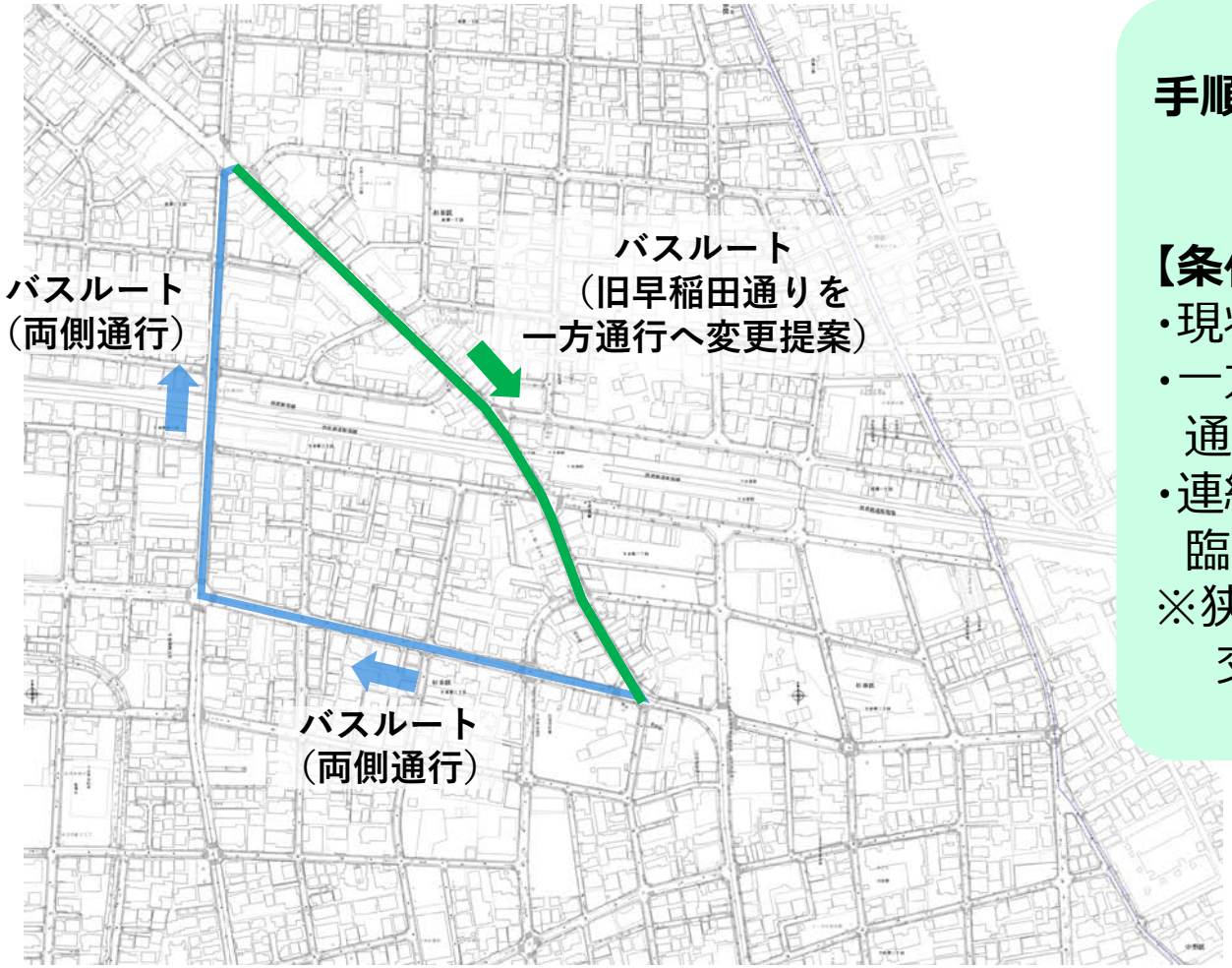
旧早稲田通りの安全化 【実現に向けたアイデアシート】
～整備内容に応じて、誰がどのような影響を受けるかを考えてみよう～

整備内容を選んでください（※複数選択可能）
１．無電柱化　２．バリアフリー化　３．一方通行化　４．道路拡幅

影響を受ける人	良くなること	対応が求められること
歩行者		
車イス利用者 ベビーカー利用者		
自転車		
自動車		
沿道住民		
商業者		
バス利用者		
道路を管理する人（行政）		
道路を管理する人（警察）		
道路を利用する人（バス会社）		
道路を利用する人（タクシー会社）		
道路を利用する人（物流会社）		

様々なバスルートを検討してみましょう。

南北の道をつないだり、交差点を曲がりやすくするなど、臨機応変に考えてください。



駅周辺の地図

手順４：３角形の他にもバスルートも検討してみましょう。
地図に自由にスケッチしてみてください。

【条件】

・現状では、バスが双方向で通れる道は限られています。
・一方通行にすることで、道路の幅員が約５mあればバスが通れると考えてください。
・連続立体交差事業を通じて南北の道路をつなげることも臨機応変に考えてみてください。
※狭い区間は道路幅を広げることや、バスが曲がりきれない交差点の隅切りを大きくするなど、柔軟に考えてください。

5 グループワーク成果発表

■発表は、回遊方式

チームの説明担当の役割

１）説明する順番を決めてください。

・全部で５ラウンドを予定しています。一人１ラウンド解説を担当してください。

２）【第１ラウンド】～【第５ラウンド】 各ラウンド５分で交代！

・１ラウンド5分です。アナウンスしますので、自分の順番になったらチームに戻り、説明してください。

回遊してプレゼンを聞くみなさんの動き

３）５ラウンド合計25分の間に自由に５チームを回り、プレゼンを聞いてください。

①説明を聞き、パネルを一読してください。

②アイデアや意見、質問を思いついたら付箋紙に書いて、該当する項目のそばに貼ってください。

6 次回のスケジュール

令和７年度（仮称）下井草まちづくりラボスケジュール

第７回（仮称）下井草まちづくりラボ
日時：令和７年９月２７日（土）　午前９時～１２時
会場：桃井第五小学校体育館
テーマ：方針・取組みの方向性の具体的な検討①（旧早稲田通りの安全化）

第８回（仮称）下井草まちづくりラボ
日時：令和７年１０月２５日（土）　午前９時～１２時
会場：桃井第五小学校体育館
テーマ：方針・取組みの方向性の具体的な検討②（駅前広場・交通結節点）

第９回（仮称）下井草まちづくりラボ
日時：令和７年１２月６日（土）　午前９時～１２時
会場：桃井第五小学校体育館
テーマ：方針・取組みの方向性の具体的な検討③（みどり）

第１０回（仮称）下井草まちづくりラボ
日時：令和８年１月１０日（土）　午前９時～１２時
会場：桃井第五小学校体育館
テーマ：方針・取組みの方向性の具体的な検討④（にぎわい）

7 区からの連絡事項

第８回（仮称）下井草まちづくりラボにおける託児利用について

（仮称）下井草まちづくりラボでは、幅広い世代の方々からご意見をいただくため、子育て世代の方でも安心してご参加いただけるように託児サービスを提供しています。

今回、託児を利用した方、利用しなかった方に関わらず、次回の第８回（仮称）下井草まちづくりラボにて、必要な方は託児利用を申し込むことができます。

託児の手配の都合上、次回のラボで託児利用をご希望の方は、
令和７年１０月８日（水）（締切厳守）までに
本日のアンケートでの回答もしくは、区へのご連絡をお願いいたします。

（仮称）下井草まちづくりラボから独立して議論を行う場を作りませんか？

本日の第７回（仮称）下井草まちづくりラボにおける「旧早稲田通りの安全化」についての検討を通して、さらに検討を重ねたい人や自ら主体的に取組み、具体的な活動がしたい人はいらっしゃいませんか。

（仮称）下井草まちづくりラボから独立して議論を進め、必要に応じてその内容を（仮称）下井草まちづくりラボで共有します。
　そのうえで、地域の皆様でまちの将来像に向けた方針や取組みの方向性を定めていきます

また、（仮称）下井草まちづくりラボから独立して議論を行う場における皆様の活動に対して、以下について、区から支援を行いたいと考えております。

①打合せ会場の手配

会の運営は皆様にお任せします。

会場は、八成区民集会所を区が手配することが可能です。

②専門家からのアドバイス

皆さまが議論を進めていく中で、専門的な知識を要する際に

専門家から２回程度アドバイスをいただけます。

参加を希望される方は、本日、ラボ終了後に「第1回」の日時と会場を決めますので、その場でお待ちください。

なお、現在、参加を検討中の方や本日時間の都合がつかない方で今後参加を希望される場合は、後日、区へその旨をご連絡ください。

【連絡先】
担当：杉並区都市整備部市街地整備課鉄道立体係
TEL：０３－３３１２－２１１１
Mail：TETSURITSU-T@city.suginami.lg.jp

7

閉会

長時間

お疲れさまでした

お配りしたアンケートのご協力をお願いします。

アンケートの記入が終わった方は、お帰りの際に

区職員へ提出をお願いします。

後日提出される方は、二次元コードまたはFAX

にて提出をお願いします。（９月２９日（月）まで）